

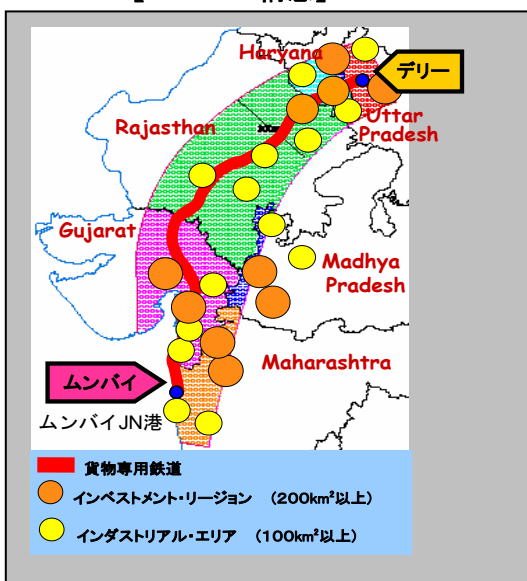
## デリー・ムンバイ産業大動脈構想と日本企業専用ニムラナ工業団地

国際協力銀行は、2009年12月、デリー・ムンバイ産業大動脈(Delhi-Mumbai Industrial Corridor：略称DMIC)構想の推進のためのプロジェクト開発ファンド(Project Development Fund：略称PDF)設立を目的とした総額75百万米ドル限度の事業開発等金融の融資契約をインドインフラ金融公社(India Infrastructure Finance Company Limited：略称IIFCL<sup>1</sup>)との間で調印した。

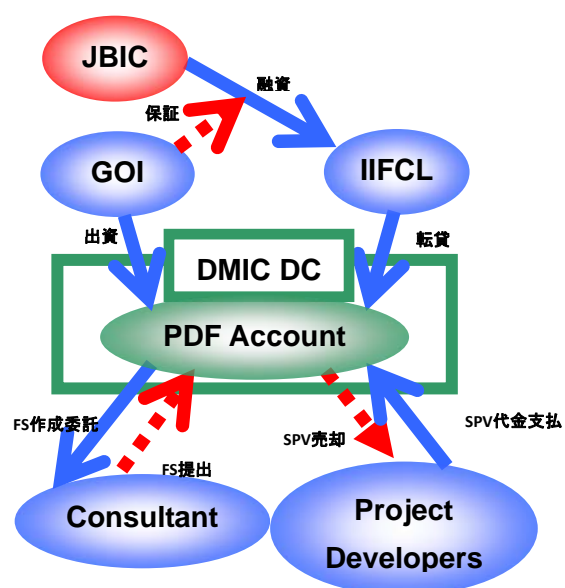
DMIC構想は、インドの2大都市であるデリー・ムンバイ間に計画されている1,483kmの貨物専用鉄道の間を両側150kmの地域に、工業団地を始めとしたインフラを集中的に整備する日印両国共同のプロジェクトである。DMIC域内のラジャスタン州に所在するニムラナ工業団地では、現在、進出日系企業によりガス・タービンを利用した共同発電事業が検討されており、当該事業はDMIC構想のアーリー・バード・プロジェクト(先行モデルプロジェクト)に指定されている。

PDFは、デリー・ムンバイ産業大動脈開発公社(Delhi-Mumbai Industrial Corridor Development Corporation Limited：略称DMICDC)が行う、各インフラプロジェクトの事業性評価や許認可取得といったプロジェクトの組成・準備に必要な資金の調達のために設立される。JBICはIIFCLを仲介金融機関としてPDF内に設定される日本側勘定に対し融資を行い、当該資金は現地に進出する日本企業の国際競争力強化に資するインフラプロジェクトの事業性評価等に活用される。

【DMIC構想】



【PDF向け融資スキーム図】



<sup>1</sup> IIFCLは、インドの急速な経済成長を支えるインフラ整備を促進するために、2006年にインド政府が設立したインフラ開発向けの金融機関。

デリーから南西に車で2時間半ほど走ったところに位置するラジャスタン州ニムラナ工業団地は、同州政府と日本貿易振興機構（JETRO）の協力により実現した日系企業専用の工業団地である。デリー近郊のハリアナ州グルガオンやマネサールにはマルチ・スズキ（四輪）やヒーロー・ホンダ（二輪）、ウツタル・プラデシュ州のノイダ（グレーター・ノイダ含む）にはホンダ・シエル（四輪）やヤマハ（二輪）等が既に進出しているものの、用地不足や土地代高騰等によりその他の日系製造企業の同地域進出が困難な状況である。また、他の工業団地に関しても、水・電気・道路等のインフラの未整備が日系企業進出の障害となっている。このため、安価で交通の利便性が良い上、日系企業が集積していることから工業団地のインフラ整備等においてJETROやJBICの支援が期待できるニムラナ工業団地の人気が高まっている。既に19社の日本企業の入居が決定し、うち11社が工場建設を開始している。（ニムラナ工業団地の土地代等の詳細は別添参照。）

深刻な電力不足問題に直面しているインドでは、公共電力は停電が頻発し電圧も不安定なため、インド進出日系製造企業の多くが、ディーゼル自家発電機を設置し、割高な電力コストを負担して電力を賄っている。ニムラナ工業団地進出日系企業が現在検討中の共同ガス発電事業は、共同発電によって電力コストを引き下げるのみならず、多量の冷却水を必要とせず、SO<sub>x</sub>（硫黄酸化物）を排出しないガス発電の採用により、同地域の水不足問題の緩和、環境負荷の低減が期待できる意義のある取組みである。JBICは、日本企業の国際競争力向上及び環境負荷低減に資する本件事業の推進を期待している。（本件事業については、「日立評論 2009年6月号」(<http://www.hitachihoron.com/2009/06/pdf/06c01.pdf>)も参照されたい。）

## ニムラナ工業団地の概要

### 【ニムラナ工業団地とは】

ラジャスタン州産業開発・投資公社 (RIICO) は、デリー空港から南西に約105kmの同州北東端でハリアナ州との州境から程近いニムラナに工業団地を開発。既にフェーズⅠ、フェーズⅡ及び輸出加工区が稼動。RIICOでは、同工業団地フェーズⅢについて、2006年7月より2年間に限定し日本企業専用に分譲 (2009年8月まで1年間延長された)。開発済みのフェーズⅡには、当地で好調に事業を展開する日系二輪メーカー・ヒーローホンダも進出を決定済み。ニムラナ工業団地は、現在自動車部品などの日系企業の集中するデリー南郊の新興都市ハリアナ州グルガオン地域から車で1時間半程度の恵まれた立地条件にある一方で、土地価格の上昇が続くグルガオン地域と比較すると極めて高い価格競争力を有する。

#### ・立地条件：

日系企業が集積するハリアナ州境に接し、デリー空港から約 105 キロ (約 1 時間半)。デリーからムンバイに至る国道8号線に面する。

#### ・面積：

フェーズⅢは 1,166 エーカー。

### 【分譲価格】

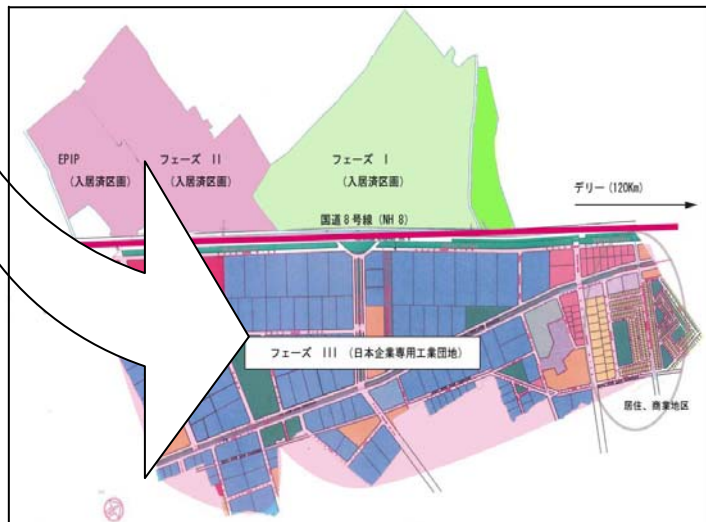
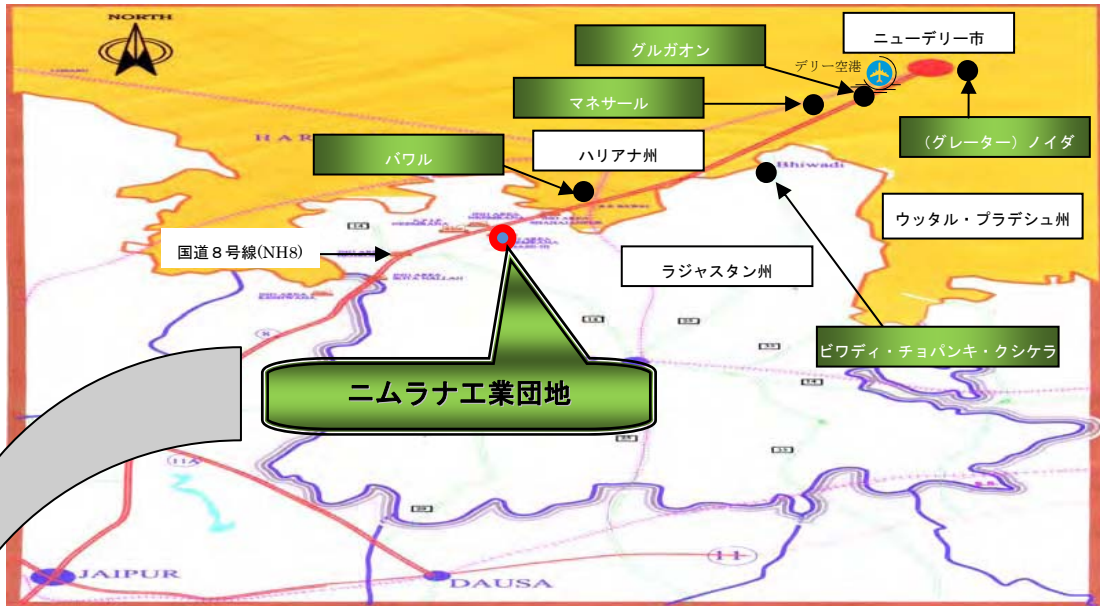
1 平米当たり (99 ヶ年リース) 単価：1,750 ルピー (取得面積の規模に応じて追加割引あり) 各入居企業により電力消費量や盛土など若干のばらつきがある点を考慮し、基礎インフラのみを整備して、基本単価を抑制。

上記単価に含まれる基礎インフラ：

1. 11KV 電力・送電線敷設 (各入居企業の建物まで)。但し、33/132/220 KV の電力・送電線については GSS (グリッド・サブ・ステーション) ポイントから各入居企業迄の距離がまちまちであることから州電力局と直接実費交渉とする。(RIICO は紹介のみ)
2. 共有水道として、各敷地内、四車線及び二車線の各公用道路に沿った形で各々直径 6 インチまたは 4 インチの水道管により敷地の入り口まで地下水を供給。この場合、水道代別途料金 (約 INR16 ルピー/1000 リットル) につき、各入居企業独自で地下水を汲み上げるほうが費用的には安上がりとの RIICO 側の見解。(但し、地下水汲み上げには、中央政府地下水局 CGWA の許認可が必要となる。当該許認可については RIICO が一括承認の方向で検討中だが、現時点でのスケジュールは不明。)
3. 敷地内公用道路、正面入り口 6 車線、幹線道路 4 車線、支線 2 車線及び街灯の敷設。
4. 敷地内レベリングは平坦化作業のみ。盛土は含まず (但し、RIICO 側が業者紹介のみ実施)。その結果、各区画は、若干、道路より低くなる。
5. 排水溝は、各上記全ての敷地内道路に沿った形で敷設。

【所在地図】

所在地住所： RIICO INDUSTRIAL AREA, NEEMRANA PHASE III



RIICO

現地担当責任者： Mr. L. N. Gupta

携帯電話：09414047948

E-mail: shahjahanpur@riico.co.

現地管轄事務所

Sr. Regional Manager, RIICO Ltd.,

Unit office EPIP Neemrana. Distt.

Alwar

電話番号 +91-142-246215

出典：ジェトロ「インド・ラジャスタン州 ニムラナ工業団地のご案内」

([http://www.jetro.go.jp/jetro/overseas/in\\_newdelhi/nimurana0911.pdf](http://www.jetro.go.jp/jetro/overseas/in_newdelhi/nimurana0911.pdf))

国際協力銀行「インドの投資環境」

(<http://www.joi.or.jp/Houkokusho/india20/chiiki.pdf>)